

## くまびょう

119号

NEWS

くまびょう  
NEWS2007年  
5月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501(代)

FAX (096) 325-2519

## 新臨床研修制度4年目を迎えて



研修部長  
清川 哲志

早いもので新臨床研修制度が発足しまして4年目を迎えます。国立病院機構熊本医療センターは単独型の臨床研修病院であるとともに熊本大学の協力型の臨床研修病院として医師の卒後研修に積極的に取り組んでいます。

本年3月31日には単独型研修第Ⅱ期生11名を送り出し、4月1日に第Ⅳ期生として16名の新しい臨床研修医を迎え入れることが出来ました。第Ⅳ期生は39名が受験し、そのうち第1位指名を18名の方々から頂きましたが、定員が16名であることから16名採用ということになりました。幸いにして全員が医師国家試験に合格しましたので、1名も欠けることなく、この4月2日(月)より研修を開始致しました。この他、第Ⅳ期生には熊本大学の協力型研修医で1年目研修を熊本大学以外で実施するカリキュラムに則り、4名が当院での研修を開始しました。即ち、第Ⅳ期生としては20名が同じ時期に研修を開始することになります。4月2日に研修開始式を挙行了しました。元気はつらつとした

優秀な人材の集まりで、日本の医療の将来を担っていただけることを期待しています。

研修は2つのグループ、すなわち1年次前半の6ヶ月間で救命救急、外科、麻酔科を、後半6ヶ月で内科の各分野を研修するグループと、逆に、1年次前半で内科の各分野を、後半6ヶ月間で救命救急、外科、麻酔科を研修するグループとに分かれて開始しました。

研修カリキュラムは各人の希望を優先し、研修の実が上がるように組んでいます。前半6ヶ月の研修の終了した時点で後半の研修内容も希望により変更できるようにしてあります。

第Ⅲ期生15名は2年目の研修に入ります。こちらも各人の希望を生かすことを基本として研修カリキュラムが組まれています。地域医療研修の期間が2週間ありまして、御協力をお申し出頂いている病医院にお世話になっていますが、本年もその時期になりましたら御相談を申し上げることになります。よろしく願ひ申し上げます。

(研修に関するお問い合わせがありましたら、清川までお願い致します。)

## 基本理念

国立病院機構熊本医療センターは

1. 最新の知識と医療技術をもって良質で安全な医療を提供します
2. 人権を尊重し、愛と礼節のある医療の実践を目指します
3. 教育・研修・研究を推進し、医学・医療の発展に寄与します
4. 国際医療協力を通して世界人類の健康に貢献します
5. 健全経営に努め、医療環境の向上を図ります



## ハートフルな 国立病院機構熊本医療センター

医療法人松本会  
希望ヶ丘病院

院長 松本 武士



当院は熊本市の南に流れる緑川のほとり、小高い丘の上に建つ希望ヶ丘病院です。小児期から老年期まで、様々な精神疾患を抱える患者様と共に、病院モットーでもある「和顔愛語」を日々実践しております。私が院長に就任する以前、約2年間に渡り国立病院機構熊本医療センター精神科にて、現在の私の医療理念の礎となる様々な勉強をさせて頂きました。特に精神科、救急、循環器科に關しましては多くの先生方にご教授頂き、精神を診

る前に先ず身体を診なければ、という私の信念をより確固たるものにすることができました。

現在、熊本県内においても精神疾患を抱える患者様は日々急増しております。その内容も実に多岐に渡り、我々精神科の病院はそのような様々なケースの患者様に常に最適な医療を提供することが求められております。しかし現状は非常に厳しく、思い描く対応もままならないことも少なくありません。例えば、身体疾患が絡んだ精神科救急の患者様は単科の精神科病院では対応が困難で、夜間や休日ともなれば一層の事です。また、入院中の患者様に合併症が生じた場合、他の基幹病院では精神症状を理由になかなか受け入れて頂けません。このような時、国立病院機構熊本医療センターは迅速かつ早く受け入れて頂き、その結果先生方を始めスタッフの皆様には大変なご負担とご尽力を強いてしまっております。しかし、受けて頂いた患者様を丁寧且つ的確に身体面を診て頂き、ハートフルなご対応を頂いた結果、その方は精神面まで軽快して戻って来られます。

国立病院機構熊本医療センターは我々精神科病院にはなくてはならない存在であり、近い将来センターご改築の際には、ハートフル+アートフルなセンターとなり、ますますご発展の事と確信しております。

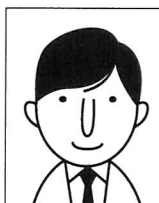
## 国立病院機構熊本医療センター開放型病院登録医証の発行について

登録医証は、共同指導の際に名札としてご利用頂けます。発行をご希望の先生は、管理課庶務係（TEL 096-353-6501 内線390）までお申し込み下さいますようご案内致します。

写真は時間内であれば当院内で撮影できますし、縦4cm×横3cmで顔全体が写っているものをお持ち頂いても結構です。

また、駐車場については、玄関前駐車場ゲートにて駐車券をお取り頂き、0番窓口（時間内）又は、時間外受付（時間外）にお申し出頂ければ、無料の手続きを致します。

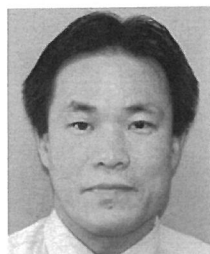
### 開放型病院登録医証



〇〇〇 医師会  
熊本 太郎

平成19年1月1日交付  
国立病院機構熊本医療センター

1. 国立病院機構熊本医療センターで診療を行う場合は、この証を持参し名札として着用下さい。
2. 駐車場を利用される場合は、この証を駐車場入口で提示して下さい。
3. この証の記載事項に変更があったときは速やかに届け出て下さい。
4. この証の有効期限は3年間と致します。



森永 信吾

小児科一般、小児血管疾患  
造血幹細胞移植  
免疫アレルギー

小児科専門医  
日本小児科学会専門医



楠本 優

小児科一般



高木 一孝

小児科一般、小児血液疾患、  
造血幹細胞移植、小児感染症

小児科専門医  
日本小児科学会専門医



緒方 美佳

救急医療全般、小児科一般  
小児アレルギー

小児科専門医



伊藤 華江

小児科一般

## 診療内容と特色

子どもの健康上の問題全般（身体および精神的疾患）について、外来、入院で治療を行っています。一般小児診療は呼吸器・消化器感染症が大部分ですが、当科ではとくに小児の血液疾患（白血病、貧血、紫斑病、血球貪食症候群など）の診療に力を入れており化学療法、造血幹細胞移植（自家移植、同種移植（血縁、非血縁骨髄移植、臍帯血移植））や免疫抑制療法などの専門的治療を行っています。アレルギー性疾患の喘息に対して外来コントロールが不良な場合は入院治療を、また卵による食物アレルギーに対して、RASTや皮内テストの結果を参考にして、厳重な管理のもと経口減感作療法を行います。発熱やけいれんなど小児の救急疾患に対しても時間外・休日を問わず、常時入院を受け付けています。血液疾患などで長期の入院を要する学童に対しては、小中学校の先生によるベッドサイド授業を毎日行っています。

当院は日本小児科学会の小児科専門医研修認定施設です。

## 診療実績

2006年の入院は入院総数514名でした。内訳は以下の通りです。

- ①呼吸器感染症 178名（35%）  
肺炎、気管支炎、細気管支炎、上気道炎など
- ②消化器感染症 68名（13%）  
感染性胃腸炎、ロタウイルス胃腸炎など
- ③血液疾患 47名（9%）

白血病、再生不良性貧血、血小板減少性紫斑病、血球貪食症候群、壊死性リンパ節炎など

- ④アレルギー疾患 18名（4%）  
気管支喘息、食物アレルギー（ミルク、卵）、蕁麻疹
- ⑤神経 88名（17%）  
てんかん、熱性けいれん、髄膜炎など
- ⑥事故 22名（4%）  
打撲症、誤飲・誤嚥、熱中症、溺水事故など
- ⑦その他（16%）として

川崎病、尿路感染症、心身症、膠原病、内分泌疾患など  
現在までに造血幹細胞移植は計35名に対して行い（生後7ヶ月～16歳、計46回）、18名（51%）が生存中です。

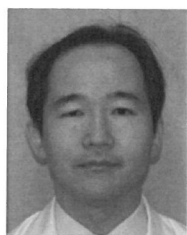
## 研究実績

小児白血病・リンパ腫の全国的な治療研究TCCSG（東京小児がん研究グループ）、JPLSG（日本小児白血病研究グループ）の参加施設として症例の登録・治療をおこない治療成績の向上に努めています。また小児再生不良性貧血治療研究に登録し抗胸腺細胞抗体（ATG）、シクロスポリン（CSA）による免疫抑制療法、造血幹細胞移植を行っています。

## ご案内

患者様の御紹介は、高木（096-353-6501（代）内線709）、森永（内線794）、緒方（内線632）へ直接お電話頂くか、患者様へ紹介状を持たせて受診して頂いても結構です。時間外・休日は小児科宛の紹介状を持参し救急外来を受診して頂くと、当番の小児科医が診察致し必要に応じて入院治療を致します。

## 新任職員紹介



総合医療センター

内分泌・代謝内科医長

とよ なが てつ し  
豊 永 哲 至

2007年4月1日より、内分泌・代謝内科（糖尿病センター）で勤務しています豊永哲至です。1988年に熊本大学医学部を卒業し、熊本大学代謝内科学教室に入局し、研修2年目に荒尾市民病院に勤務した後、1990年から熊本大学大学院医学研究科に進学しました。大学院ではトランスジェニックマウスを用いて1型糖尿病発症におけるMHCクラスI・II領域の疾患感受性遺伝子の解析やインターフェロン $\gamma$ 発

現1型糖尿病における遺伝因子の解析を行いました。大学院修了後は、大学病院の医員を経て1995年よりハーバード大学医学部ジョスリン糖尿病センターへ留学し、1型糖尿病におけるMHC領域の解析を続けるとともに、糖尿病腎症やインスリン抵抗性に関係する遺伝因子の解析を行いました。1997年に帰国してからは大学で主に2型糖尿病発症におけるIRS-1の解析や当科の児玉章子先生と一緒に膵 $\beta$ 細胞の再生・分化に関する研究を行っていました。地域の中核医療施設として活躍する当院に早く慣れ、多くの糖尿病や内分泌・代謝系疾患を経験し学んでいきたいと考えております。専門性を活かし高度な医療を提供すべく頑張りたいと思いますので、何卒、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



小児科

お 緒 がた み か  
緒 方 美 佳

4月より小児科に勤務させて頂くこととなりました緒方美佳と申します。

1997年に熊本大学小児科学教室に入局し、11年目となります。

大学病院での研修終了後は、熊本市市民病院、熊本赤十字病院、山鹿市立病院、水俣市立総合医療セン

ターにて勉強致しました。昨年10月からの半年間は熊本大学附属病院のICUに勤務致しておりました。多くの患者様やスタッフに出会い、また医師としても人間としても色々な経験をすることができ、振り返ってみると本当に恵まれた10年間でした。

また、2005年4月から1年半の間、神奈川県国立病院機構相模原病院にて小児アレルギー疾患について勉強して参りました。当院が小児科医としては帰熊後初めての勤務先となり、張り切っております。「人にも病気にも一生懸命」を目標に、楽しく努力していければと思っております。ご指導ご鞭撻の程どうぞ宜しくお願い申し上げます。



産婦人科

その だ なお こ  
園 田 直 子

お世話になります。

4月より産婦人科勤務となりました園田直子と申します。

1997年に高知医科大学を卒業後、熊本大学に入局致

しました。1年間大学で研修を終えた後、熊本労災病院で2年間勤務しました。その後熊本大学大学院に入学し、「絨毛マクロファージにおけるhCG分解」について研究を致しました。その後大学に2年、水俣市立総合医療センターに1年勤務しておりました。

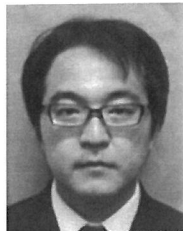
水俣での診療はおもに周産期でしたので、悪性腫瘍が中心のこの病院で、また改めて勉強させて頂きたいと思っております。一般診療や夜勤等でご迷惑をかけることと思っておりますが、何卒よろしくお願い致します。

### ■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで



## 泌尿器科

やま ぐち たか ひろ  
山 口 隆 大

4月より泌尿器科に勤務となりました山口隆大です。2001年に熊本大学を卒業し、熊本大学泌尿器科に入局しました。大学病院、宮崎県の高千穂町立病院、熊本赤十字病院にて研修医として勤務しました。その後3年間を水俣市立総合医療センターにて勤務し泌尿器科

専門医を取得し、1年間を熊本中央病院で勤務し、本年度にて7年目となります。

専門分野はまだありませんが、泌尿器科全般を勉強したいと考えております。特に当院では救急患者様が多いと聞いておりますので、これまであまり診る機会が少なかった救急や外傷患者様を受け持つことも多くなることと思います。自分の得意分野になればと思います。

電子カルテ導入の病院での勤務も初めてですので、仕事に慣れるまで時間が掛かるとは思いますが、皆様の御指導、御鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



## 感覚器センター

## 耳鼻咽喉科

たけ むら たか ふみ  
竹 村 考 史

2007年4月1日より耳鼻咽喉科に勤務しております竹村考史と申します。福岡県北九州市出身です。2001年に熊本大学医学部を卒業後、熊本大学で1年間、熊本市民病院で1年間研修し、再び熊本大学で3年間、そして天草中央総合病院で1年間勤務してまいりました。

前任の緒方先生、羽馬先生には大学時代にも御指導して頂きましたが、また先生方のもとで働くことができ、光栄に思っております。昨年は、日本耳鼻咽喉科学会専門医試験という久々の試験を経験しました。前年の合格率が59%で、また大幅な出題形式の変更のため、かなり緊張しました。何とか合格しほっとしておりますが、専門医として恥じないよう身を締め、(当然のことですが)丁寧な対応、適切な診療が出来るよう日々努力したいと思っております。

いろいろとご迷惑をおかけすることもあると思いますが、何卒よろしくお願いいたします。



## 感覚器センター

## 皮膚科

い がた とし かつ  
伊 方 敏 勝

本年4月より皮膚科へ勤務しております伊方敏勝です。2002年に熊本大学医学部を卒業し、熊本大学病院でのローテーターとしての研修を開始し、同時に熊本大学皮膚科・形成外科医局に入局をしました。1年間熊本大学で研修を行い(代謝内科・麻酔科にて半年ず

つ)、2003年より研修医として当院で働かせて頂きました(外科・救急部・小児科・精神科でのローテーターでした)。2004年から2年間は熊本大学病院皮膚科・形成外科に勤務しました。2006年に熊本大学大学院に社会人大学院生として入学し、2006年4月より飯塚病院皮膚科に勤務し、現在に至っています。

まだまだ未熟者であり当院の多忙な救急体制についていけるかどうか不安もありますが、以前研修していたときに御世話になっていた方々に再会できるので楽しみでもあります。ご迷惑をおかけすると思いますがご指導の程よろしく申し上げます。

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス

<http://www.hosp.go.jp/~knh/>



## 産婦人科

伊藤 史子

本年4月より産婦人科に勤務しております伊藤史子と申します。

2003年に熊本大学を卒業し、同病院の産婦人科に入局しました。研修医1年目は大学病院に勤務し、2年目は水俣総合医療センターにて研修を行いました。水俣では主に産科を中心に研修させて頂きました。その

後は再び大学病院に戻り、2年間勤務後、現在に至っております。2年間というものの、実際は途中で産休・育児休暇を頂きましたので、9ヶ月のブランクがあり、本年1月から仕事に復帰となりました。

復帰後は大学病院では外来だけを担当していましたので、病棟や手術に携わらせて頂くのは約1年ぶりであり、とても新鮮な気持ちであるのと共に、研修医の時とは違った緊張感があります。

まだまだ経験も浅く、勉強しながらの毎日になるかと思いますが、早く病院のスタッフとして役に立てるように頑張っていきたいと思っておりますので、御指導、御鞭撻の程どうぞよろしくお願い致します。



## 心臓血管センター

## 循環器科

原田 恵実

本年4月から循環器内科レジデントとして勤務することになりました原田恵実です。

2004年から熊本大学病院で2年間の臨床研修を修了した後、2006年4月に熊本大学循環器内科に入局しま

した。臨床研修では1年目は熊本大学で内科、外科を、2年目は荒尾市民病院で産婦人科、小児科、精神科などで研修をしました。2006年から後期研修が開始となったのですが、研修面などから熊大病院循環器内科へ入局を選択しました。この1年間は大学病院で研修し、いままでの臨床研修医とは異なった立場での医療の困難さ、重要性を実感しました。

医療に携わって間もないため、様々な先生方にご指導頂くことが多々あると思いますが、これからもよろしくお願い致します。



## 消化器病センター

## 消化器科

松山 太一

4月より御世話になっております松山太一です。研修医が明けたばかりの3年目です。消化器内科医として御世話になります。

出身は熊本県荒尾市ですが、高校は長崎にて過ごし、大学からはまた熊本に戻ってきました。小学生から大学まで剣道をしてきましたが、働き出してから

はなかなか運動は出来ておりません。

卒後臨床研修は大学病院と球磨郡公立多良木病院にて勉強させてもらいました。多良木病院は私にとっては大変影響を受けた病院で、そこで内視鏡を教えてもらいまして、それがきっかけで消化器内科を専門にしようかと思いました。

国立病院機構熊本医療センターでは専門は勿論のこと、救急など幅広く勉強したいと思っております。研修医が終わったばかりの右も左も分からぬ不束者ですが、何事も勉強と思って一生懸命に頑張りますので、どうぞ御指導・御鞭撻の程、宜しくお願い致します。



## 歯科・口腔外科

佐藤 みやこ

4月より歯科・口腔外科に勤務しております佐藤みやこと申します。

2005年に福岡歯科大学を卒業後、2年間、口腔治療学講座・歯周病学分野に在籍し、主に歯周治療を

中心とした歯科保存学を学んでおりました。こちらでは口腔外科治療を中心に救急歯科医療、高齢・有病歯科医療など幅広く学んでいきたいと思っております。これまでは経験の少ない分野ではありますが、何事も勉強だと思って一生懸命頑張ります。

まだ2年と経験が浅いため、周りの方々にはご迷惑をおかけすることが多いと思っておりますが、病院スタッフの一員として頑張っていきたいと考えております。

ご指導の程、よろしくお願い致します。

# FAX紹介での時間予約制をご活用下さい

日頃、多くの患者様をご紹介頂きまして誠に有り難うございます。当院は紹介状をお持ちの患者様につきまして優先診療を行っていますが、紹介状をお持ちの患者様が重なると待ち時間が長くなることがあります。患者様の待ち時間を短くするためにFAX紹介で時間予約が可能となりますのでご活用下さい。

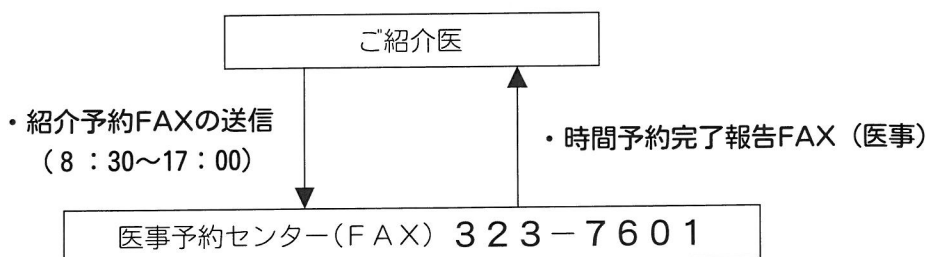
当院のFAX紹介用紙に受診希望日を入れてお送り下さい。担当者がカルテを作成し希望日に時間予約を取りましてFAXにて返信致します。日勤帯であれば

10分以内に返信致します。紹介患者様は予約の時間に来院して頂ければ、長く待つことなく診察を受けることが出来ます。

紹介状のみの患者様につきましても今後も優先診療を行います。是非、FAX紹介での受診日の指定と時間予約制をご活用して頂き、患者様の待ち時間短縮にご協力下さい。よろしくお願ひ申し上げます。

(外来委員長 清川 哲志)

## FAX紹介患者の予約方法について



問い合わせ先 国立病院機構熊本医療センター (代) 353-6501 内線: 248



**国立病院機構熊本医療センター宛**  
診療情報提供書兼紹介状  
【FAX(096) 323-7601 TEL(096) 353-6501】

1 紹介先診療科 \_\_\_\_\_ 科 \_\_\_\_\_ 医師 \_\_\_\_\_

2 紹介元医(病)院名 \_\_\_\_\_ 電話番号 \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

3 受診予定日 平成 \_\_\_\_年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日 (曜日) \_\_\_\_時 \_\_\_\_分頃 入院・外来 \_\_\_\_\_  
緊急性の有無(有・無) \_\_\_\_\_ 来院方法(救急車・その他) \_\_\_\_\_ 熊本医療センター受診歴(有・無) \_\_\_\_\_

4 受診者情報

ふりがな	保険者番号								
患者氏名	男	記号番号							
	女	保険区分	本人・家族						
生年月日	M・T・S・H 年 月 日 歳	公費番号							
勤務先及び連絡先	電話 ( )	受給者番号							
現住所	〒( ) 県	電話 ( )							
		市 郡							
		町 村							
		番 地							
傷病名									
紹介目的									
既往歴及び家族歴									
症状経過・治療経過及び検査結果									
現在の処方及び備考									

FAX (096) 323-7601

① 送信用 FAX 用紙及び紹介元控

いま、国立病院機構  
熊本医療センターで  
何が研究されているか

シリーズ 34回

腎障害によって発見された高カルシウム血症の検討  
- 活性型ビタミンDの副作用に御注意下さい -



腎センター長 富田 正郎

7年前の医療法改正により、血液検査は10項目以上測定しても診療報酬上は包括（まるめ）となりました。Na、K、Clと異なり、CaやPは多くのセット項目から除外されているのが全国的な流れです。それで血清Ca値異常は発見されにくくなっています。低Ca血症であればテタニーやQT延長といった特徴的かつ特異度の高い症状や臨床所見があり、まだしも診断されやすいのですが、高Ca血症には特異的な症状・徴候がなく不定愁訴様（例：倦怠感、抑うつ、筋力低下、便秘、嘔気、高血圧、消化性潰瘍、脱水症状、尿路結石等）であり、症状のみで鑑別に挙げるのはきわめて困難です。

高Ca血症では腎障害が起きやすく、腎障害の原因精査目的で腎臓内科コンサルトされ高Ca血症が発見されることがあります。そのような症例の臨床的特徴を検討してみると、検尿で蛋白尿、血尿等の検尿異常を認めず、尿比重が低い場合が多く、検尿異常を伴わない腎障害時には高Ca血症を疑う必要があります。原因は（表1）にありますように活性型ビタミンD3中毒が6例と最も多く、医原性の高カルシウム血症が圧倒的に多いことがわかりました。複数の医療機関からの重複処方となる場合があります。腰痛がなかなか治らないため掛け持ち受診し、その事を隠すため重複投与になりやすいようです。「ビタミン」との安心感から重複投与になっていても患者は危機感を持っていません。

表1 高カルシウム血症による腎障害の特徴

性別	女性率	年齢(才)	BUN (mg/dl)	Cr (mg/dl)	Ca (mg/dl)	P (mg/dl)	尿蛋白	尿潜血	インタクトPTH	
F	1	73	36	1.8	11.6	4	0	0	16	活性型VnD3中毒
F	1	80	73	1.9	10.4	5.7	0	0	未	活性型VnD3中毒
F	1	77	60	2.2	11.8	3.3	0	0	10	活性型VnD3中毒
M	0	73	36	1.4	10.4	4.2	0	0	30	活性型VnD3中毒
F	1	80	45	2.3	11.5	3.3	1	0.5	14	活性型VnD3中毒
F	1	80	46	3.7	12	5.2	0.5	0.5	未	活性型VnD3中毒
平均	0.8	77.2	49.3	2.2	11.28	4.28	0.3	0.2	17.5	
M	0	58	33	2.5	18.5	11	0	0	9	癌骨転移
M	0	68	15	6.4	10.8	0.8	3	3	14	不動態 甲状腺機能低下症
F	1	77	52	2.3	13.2	3.4	0.5	0.5	17	原因不明 認知症
M	0	55	22	1.4	10.9	3.7	0	2	未	サルコイドーシス
F	1	47	12	0.7	10.8	2.3	2	3	101	1° HPT 慢性腎炎
M	0	67	25	2	11.5	3.3	3	2	9	原因不明 ネフローゼ症候群
F	1	31	56	2.1	11	4.5	2	0	未	利尿薬 慢性バーター症候群
F	1	33	33	0.6	10.7	3.4	0	0	159	1° HPT
M	0	71	54	2	10.4	2.4	0	0	未	原因不明
平均	0.4	56.3	33.6	2.2	11.98	3.87	1.2	1.2	51.5	

備考) 性別のFは女性, Mは男性, SGは尿比重, 尿蛋白と尿潜血は0がマイナス, 0.5が±, 1が1+, 2が2+, 3が3+, 1° HPTは原発性副甲状腺機能亢進症, インタクトPTHの単位はpg/ml, 未は未測定.

活性型ビタミンD3製剤は「劇薬」ですが、「ビタミン」という言葉のイメージにより副作用がないと安易に考えている患者や主治医が多いのが現状のようです。活性型ビタミンD3製剤は高カルシウム血症により急性腎不全をきたすため劇薬に指定された薬剤であり、定期的に血清カルシウム濃度（または尿中カルシウム排泄量）を測定することが義務付けられています。一方でビスフォスフォネート製剤も劇薬指定ですが、こちらは内服方法に制約があるため患者も主治医も「いかにも副作用の強い薬」として認識している場合が多いようです。ビスフォスフォネートを処方したい患者から「安全な薬」を所望されて活性型ビタミンD3製剤を処方する、といった誤った処方のされ方も散見されました。

高齢者では活性型ビタミンD3中毒が生じやすく、骨粗鬆症に対する用法・用量は厳しく制限されています。一方、低カルシウム血症の病気（骨軟化症や原発性副甲状腺機能低下症）は、カルシウム値を上昇させるのが目的ですのでより多い用量が設定されています。これらの用量を混同して過量投与されている場合があります。

また血清Caが上昇しても「骨を丈夫にするためなので多少の高カルシウム血症は合目的である」とのお考えで処方を継続される先生もいらっしゃいました。正常上限を超えたら(より厳密にはアルブミン補正值が正常上限を超えたら)中止する旨が能書に記載されております。

以上、最近増加しています活性型ビタミンD中毒につき知見を御報告申し上げます。

表2 腎臓内科で発見された高カルシウム血症の原因

・ 活性型ビタミンD3中毒	6例
・ 原因不明	3例
・ 原発性副甲状腺機能亢進症	2例
・ 癌の骨転移	1例
・ サルコイドーシス	1例
	他



# トロント大学 家庭地域医学講座 バティ教授を迎えて



外科医長

芳賀 克夫

2007年3月19日から21日まで、カナダのトロント大学家庭地域医学講座の主任教授であるヘレン・バティ先生を国立病院機構熊本医療センターにお迎えして、医療の質に関する共同研究を行うとともに、臨床研修に関する職員教育を行って

頂きました。カナダはEBMの母国であることから分かるように、医学教育に熱心な国です。その中でも、バティ先生の存在は卓越しており、彼女の卒後教育に関する論文、書物は世界中で愛読されています。また、バティ先生が主催するワークショップは世界中で行われており、1年先まで予約が埋まっているという人気振ります。今回は、症例検討会、講演会、ワークショップを開催しましたが、随所に“ヘレン・マジック”が炸裂し、驚きの連続でした。

19日および20日に行った症例検討会では、彼女の知識の広さにただただ恐れ入るばかりでした。カナダで家庭医学とは、内科、外科、救急医療、産婦人科、小児科、整形外科、精神科などを包含する幅広い診療科です。つまり、カナダの家庭医は、内科や小児科の患者を診るだけでなく、正常分娩から帝王切開、骨折の整復、外傷の縫合処置、救急医療まで行うスーパードクターです。研修医が提示したさまざまな症例に対して、最も大事なポイントを瞬時に見抜き、誰もが気付いていない盲点をズバッと指摘されていました。その深い洞察力、鋭い観察眼には、目から鱗が落ちる思いでした。また、研修医の発表に対して、「あなたの英語はすばらしかった。」「あなたのスライドは分かりやすかった。」「あなたの話にとっても感動した。」などのフィードバックを与える一方で、診療上絶対行ってはいけないこと（レッド・フラッグ）を優しく教える姿に、教育者としての本質を垣間見ました。2日目の検討会の最後で、「今日の症例の話聞いて、あなたはなに最も驚きましたか？」と研修医に尋ね、振り返り（リフレクション）をしていたのがとても印象的でした。このことにより、研修医は大きな安心感を得ることができた事でしょう。ほんのわずかの工夫により、研修医

と指導医との間に信頼関係を築くことができることを実感させられた次第です。

20日に行われた講演会では、彼女の理論である「教育者中心の教育を受けた医師は、患者中心の医療を行う」について、分かりやすく、具体的に述べられました。特に、過去のさまざまな調査結果から、医師が尊敬する指導医の姿と国民が望んでいる医師の理想像とが見事に一致していることを指摘された時は、新鮮な感動を覚えました。つまり、医師は、後輩の医師からも患者からも、優れた人格を持ち、高い診療技術を持つとともに、管理能力があり、教育的であり、科学者であることが望まれているのです。このことを第三者的に指摘されることにより、医師のあるべき姿、理想像を改めて思い知らされました。

21日最終日に行われたワークショップでは、指導困難な研修医を5つの分類型に診断し、その対処法を考えるという全く経験したことのない手法に衝撃を覚えました。このワークショップには、研修医・指導医の双方が参加しましたが、ともに相手の立場を理解することができ、新鮮なアイデアが次々と湧いてきました。当院の今後の研修医教育に大いに役立つでしょう。ワークショップの最後に、バティ先生は挨拶をされましたが、我々と出会ったことで、彼女自身も深い感動を得ることができたことを涙ぐみながら話されました。我々と彼女の間で友情が育まれたことを確信した瞬間でした。

来年以降も彼女を招聘し、臨床研修の質の向上に役立てていきたいと考えています。



症例検討会でコメントを述べるバティ先生

# 熊本がんフォーラムのご案内



副院長  
池井 聰

「熊本がんフォーラム」は、医師だけではなく看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、事務職員等すべての医療従事者が参加できる「がん」の勉強会として2002年に発足し、これまで計18回開催してきました。内容は、日常行っているがん診療で困った症例の検討や、斬新な治療法の紹介、また最新知識の啓蒙を、専門外の医師やコメディカル、事務職員にも理解できるように解り易くプレゼンテーション・討論しています。

第1回は2002年8月6日に、症例報告の後、河野臨床研究部長が「血液幹細胞移植の現状」の講演を行いました。その後「がん」を診療している当院の診療科の医師が血液疾患、婦人科のがん、肝臓がん、小児がん、腎臓がん、膀胱がん、肺がん、食道がん、大腸がん、咽頭がん、皮膚がんといった臓器別や、放射線治療、ラジオ波療法といった治療法別など色々の切り口

で幅広く開催してきました。

院外講師として当院OBの愛知医科大学乳腺内分泌外科学講座の山下純一教授（当時）に、乳腺外科の講演をして貰いました。繰り返しになりますが、このフォーラムの特徴は、専門以外の医師はもとより、看護師等のコメディカル、さらに事務系職員まで解るように易しい表現で講演し、討論することです。「がん」フォーラムを聞いた看護師からは受け持っている患者様の「がん」の病態がこれまでより解ってきた、事務職員からは「がん」の保険請求に役立ったとの意見が聞かれました。フォーラムの司会は登録医の先生にお願いしています。これまで司会を務めて頂いた先生方にはこの場を借りましてお礼申し上げます。

今後も、年4回開催していきますので、参加はもとより、先生方が診療されている「がんの患者さん」で提示頂ける症例や、希望の講演内容等がありましたらお知らせ頂ければ幸いです。またスタッフの方の参加も歓迎致します。開催前には「くまびょうニュース」でご案内致しますので、多数のご参加をお願い致します。

## 日本医療マネジメント学会第9回熊本地方会開催報告

去る3月16日、熊本学園大学において日本医療マネジメント学会第9回熊本地方会が会長の熊本市医師会熊本地域医療センター院長相良勝郎先生のもと開催されました。

一般演題30題、クリティカルパス展示25題の発表とシンポジウム「医療におけるIT化の現状と諸問題」、そして九州大学大学院の信友浩一先生による特別講演「新医療計画（2008）；患者の視点から地域医療連携を見直す」が行われました。

雨天にもかかわらず、県内各地から約300名の医師、看護師等の医療従事者の参加があり、今回、相良勝郎会長が掲げられたテーマ「患者の視点から地域医療連携を見直す」をIT化と医療制度の面から考える大変意義ある会となりました。

地方会の準備・運営をお世話頂いた熊本市医師会熊本地域医療センターの皆様には厚く御礼申し上げます。

第10回熊本地方会は、熊本整形外科病院・熊本リハ

ビリテーション病院理事長の丸田秀一先生を会長に2008年3月に開催される予定です。

（統括診療部長 野村 一俊）



九州大学大学院信友浩一先生の講演風景

# 研修のご案内

## 第69回 三木会 (無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]

[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶2007年5月17日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 外来高血圧患者の尿中食塩排泄量の実態 国立病院機構熊本医療センター 管理栄養士 大山 明子
2. 口内炎で歯科受診した際に高血糖を指摘され、糖尿病性ケトアシドーシスと診断された1型糖尿病の1例  
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科  
山部典久、市原ゆかり、児玉章子、高橋毅、豊永哲至、東 輝一朗
3. 経過観察中に先端巨大症と診断された糖尿病の1例  
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科  
市原ゆかり、児玉章子、高橋毅、豊永哲至、東 輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501 (代表) 内線705

## 第212回 初期治療講座 (会員制)

[日本医師会生涯教育講座5単位認定]

日時▶2007年5月19日(土)15:00~18:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

### 「心臓弁膜症」

座長 熊本市医師会 室原 良治

1. 弁膜症の診断と内科的治療 国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科医長 藤本 和輝
2. 弁膜症の外科的治療 国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター心臓血管外科医長 毛井 純一
3. 器材供覧

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費20,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

## 第100回 月曜会 (無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]

日時▶2007年5月21日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 呼吸器内科による胸部X線写真供覧  
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター呼吸器内科医長 森松 嘉孝
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例呈示「左眼痛を主訴に来院し左上下肢麻痺が進行した1例」  
国立病院機構熊本医療センター脳神経センター神経内科医長 田北 智裕
4. ミニレクチャー「肺塞栓症の最新の治療」  
国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科医長 藤本 和輝

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線写真、心電図等がございましたら、ご持参下さいませようお願い致します。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

## 第83回 救急症例検討会 (無料)

日時▶2007年5月23日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

### 症例検討「精神科救急」

国立病院機構熊本医療センター精神科医長 渡邊 健次郎

医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

[問合せ先] 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線263 096-353-3515 (直通)

2007年

# 研修日程表

5月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

5月	研修ホール	会議室	その他
1日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
2日(水)			17:00 消化器疾患カンファレンス C
7日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
8日(火)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
9日(水)			17:00 消化器疾患カンファレンス C
10日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
11日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
12日(土)	14:00~16:00 第197回 滅菌消毒法講座《会員制》 「滅菌に関する諸問題」 国立病院機構熊本再春荘病院麻酔科医長 柴田 義浩		
14日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
15日(火)	18:00~19:30 第36回 くすりの勉強会(公開)	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
16日(水)	18:00~19:30 第47回 国立病院機構熊本医療センタークリティカルバス研究会(公開)		17:00 消化器疾患カンファレンス C
17日(木)	19:00~20:45 第69回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	19:30~21:00 有病者歯科医療研究会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
18日(金)		18:30~20:30 熊本地区核医学技術懇話会	8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
19日(土)	15:00~18:00 第212回 初期治療講座《会員制》 [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 座長 熊本市医師会 室原 良治 「心臓弁膜症」 1. 弁膜症の診断と内科的治療 国立病院機構熊本医療センター循環器科医長 藤本 和輝 2. 弁膜症の外科的治療 国立病院機構熊本医療センター心臓血管外科医長 毛井 純一 3. 器材供覧		
21日(月)	19:00~20:30 第100回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
22日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
23日(水)	18:30~20:00 第83回 救急症例検討会 症例検討「精神科救急」		17:00 消化器疾患カンファレンス C
24日(木)	18:30~21:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~20 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M
25日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
28日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
29日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
30日(水)	19:30~21:00 臨床口腔外科研究会		17:00 消化器疾患カンファレンス C
31日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 18~19 代謝内科カンファレンス M

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手 手術室控室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 M ミーティングルーム

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)